

2005年農林業センサス 農林業経営体調査の見直しの評価について(案)

施策の展開方向

- ◆ 効率的かつ安定的な農業経営(個人、組織)の育成
- ◆ 農業経営の法人化の推進
- ◆ 地域の農業生産の合意形成(担い手と高齢農家等との役割分担)



2005年農林業センサス 改正の考え方

- ◆ 農業センサスと林業センサスを統合
- ◆ 農林業経営体概念の導入
 - ・ 多様な経営形態(個人・組織など)を「農林業経営体」として統一的に把握
 - ・ 同一世帯で独立して行われる複数の経営をそれぞれ正確に把握

2005年農林業センサス

農林業経営体調査

個人経営(農家・林家)

法人経営

非法人の組織経営

自給的農家



◎ 従来の「世帯概念」(農家や林家)に加え 「農林業経営体」概念の結果も把握可能

◎ 農業と林業を合わせ行う農林業経営体の実態が明確化

<従来の取り方>

○農家及び農家以外の農業事業体

201万経営体

○林家及び林家以外の林業事業体

20万経営体

<見直し後>

●農林業経営体

209万経営体

・うち農業と林業を
両方向う経営体
12万経営体

◎ 共通した調査項目により法人経営全体の姿が明確化

<従来の取り方>

○法人化している農家及び農家以外の農業事業体

19,000経営体

林業に係る法人化は把握していなかったため不明

<見直し後>

●法人化している農林業経営体

27,000経営体

・うち法人化している
林業経営体
8,500経営体

◎ 個人と組織を合わせた母集団情報の提供が可能となった

今後の方向

継続して実施することにより調査の有用性が高まる

◎ 農林業経営体としてのセンサス間の経年的な動向等の分析が可能

- ・ 農林業経営体数
- ・ 事業収入規模別経営体数

◎ 個人経営から組織経営への発展経過が明確化

- ・ 個人から組織へ移行した経営体の動向分析
- ・ 非法人から法人へ移行した経営体の動向分析